

●シリーズ●わが町の文化財へ79

世羅町史跡 中村屋敷の土塁と石垣

平成2年8月20日指定

「中村屋」の屋号で今日まで残ってきた中世武士の居館跡です。現在この屋敷地は、個人居宅として使用されており、敷地内へ勝手に立ち入ることはできませんが、広い屋敷地の中には、水田、畑、建物も数棟あり、北側は竹藪となっています。屋敷の広さは東西約70m、南北約80m。土塁の延長は約160m。また、屋敷に向かって左前側と左側には、石垣遺構があります。この石垣は、後世の組み換えがみられますが中世末く近世初頭と思われる石積みもあり、濠（堀）跡もうかがわれます。

「稻荷旧記」（寛永11年・一六三四）には、「大永2年（一五二二）世羅郡祿郷の庄津田村の政治を掌る者は、明神山の城主金築少輔七郎の家臣中村宗太郎光重なり」とあり、「光友の石置道」も家臣であったこの中村氏が構築したと伝えられています。



▲石垣遺構



▲V字状の濠（堀）の跡

●シリーズ●わが町の文化財へ80

世羅町重要文化財 日南の宝篋印塔

昭和55年6月16日指定

この塔は、花崗岩製で、広島県史跡廃万福寺跡の東の丘（日南）にあります。高さ約1.8m、基壇は下2段が切石造りで上段は反花式です。基礎は高さ約43cmで反花式。四面に輪郭を巻き、格狭間が設けてあり、脇に「奉書写阿弥陀経」「正平十二年（一三五七）十一月日」「大願主僧契阿弥陀佛」等の銘文が陰刻してあります（一面は磨滅して判読不可）。塔身は高さ約32cmで四面に蓮華座を刻出し、その上に直径

22cmの月輪を描き、内に金剛界四仏の種子（梵字…古代インドのサンスクリット文字）が薬研彫されており、笠は高さ47cm下2段上6段の定形式です。相輪は欠損し、現在別の小型のものに乗せてあります。本塔は、かつて存在した万福寺の僧契阿上人が、南北朝時代に阿弥陀経を書写して、塔の下部に納めたものと推定されています。当時の仏教信仰の一端をうかがい知ることのできる貴重な石塔です。

